

平成30年度 第2回 国立大学法人鹿屋体育大学経営協議会議事要旨

1. 日 時：平成30年6月25日(月) 13時00分～15時00分
2. 場 所：【鹿屋体育大会会場】鹿屋体育大学管理棟2階 大会議室
【東京会場】 筑波大学東京キャンパス文京校舎3階 320講義室
3. 出席者：【学内委員】松下、森、原田、石田の各委員
【学外委員】泉、岩切、上治、小館、宮嶋の各委員
4. 列席者：緒方監事、岩重監事、山田附属図書館長、荻田学長補佐、瓜田学長補佐、濱田学長補佐、前田学長補佐、事務局次長兼教務課長兼学生課長、学術図書情報課長、総務課長、経営戦略課長、財務課長、施設課長、監査室長

5. 内容

(質疑の○は学外委員の発言を、●は学内委員及び学内者の発言を示す。以下同じ。)

1) 前回議事要旨確認(資料1、資料2)

平成29年度第7回経営協議会議事要旨案及び平成30年度第1回経営協議会議事要旨案について確定された。

2) 審議事項

(1)平成31年度鹿屋体育大学概算要求について(資料3)

石田理事から配布資料に基づき、平成31年度鹿屋体育大学概算要求について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

○現在の「国際交流協定校」は何校あるのか。また評価指標に関して、留学生数の目標値としてパーセンテージが示されているが、具体的に何名程度となるのか。

●現在のところ協定校は9校である。また、留学生数は現状として10名程度であるため、人数で言えば1名から2名となる。

○「国際競技力」について、具体的な競技種目はどういったものか。また、どのような指標を設定しているのか。

●近年では体操競技部及び自転車競技部が国際大会で優秀な競技成績を挙げており、東京オリンピックにおける代表選手輩出を目指して、大学としてこの2団体に重点的な支援活動を実施している。

○「入試改革推進体制の機能強化」とは、具体的にどういった内容か。

●現在の一般入試で実施している面接試験を、プレゼンテーションと口頭試問という形式に変更することを検討している。現在ワーキンググループを立ち上げて検討しており、今年度中の策定を目指している。AO入試についても同様である。

○それは、プレゼンテーションの内容で学生の能力を確認するという事なのか。

●プレゼンテーション能力が高い学生を獲得し、教学システムで育て上げ、その後のキャリアへ運び出すことを全体の機能強化として捉えている。そのため、プレゼンテーション能力が高い学生が入学し、指導実践の能力を育てていくための可視化された教育システムを構築したいと考えている。

(2)平成29事業年度に係る財務諸表等について(資料4)

石田理事から平成29事業年度に係る財務諸表等について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

(3)平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書について(資料5)

石田理事から平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

3) 報告事項

(1)平成30年度在籍学生数について(資料6)

有馬次長から配布資料に基づき、平成30年度の在籍学生数について説明があった。

○年間の退学者はどの程度いるのか。

●進路変更や経済的理由等により、年間で5件程度である。

○女子学生の在籍数が少ない事について、対応策はあるのか。

●多くのスポーツ競技で女性の人数は増えているが、本学を受験する女性が少ない。

また、女子体育大学へ女性が集まる傾向にあると考えられ、本学を受験生が増えていないと思われる。委員の皆様から、今後女子学生を増やすためのアドバイス等を頂けるとありがたい。

○オープンキャンパスについては、鹿屋だけでなく、東京サテライトキャンパスをうまく利用して情報提供をしていただきたい。また、鹿屋体育大学を卒業後に体育教師として活躍している女性を実例とした情報提供を行うことも、女子学生を増やすために有効と思われる。現状として、卒業後に教員となった女子学生はどの程度いるのか。

●具体的な女子学生の数は、現状として把握していない。大学説明会に関しては、本学と東京サテライトキャンパスで実施しており、民間で実施される大学説明会にも可能な範囲で参加している。ご指摘のあった女性の活躍に関する資料について、大学をPRする際に数を増やすことを検討したい。

○高校生が体育系の分野へ進学しないのは、卒業後の進路が明確でないことが理由の1つと考えられる。特に女子学生については、保護者らの意見に大きく影響されるところがある。卒業後の進路に関する詳しいデータを用いて、競技者以外にも様々な進路があることを、具体的な事例により示すことが必要と思われる。

●本学を卒業後に活躍している女性は多くいるので、広報活動や大学説明会の資料として多くの事例を示すようにしたい。

(2)平成29年度卒業・修了者の進路状況について(資料7)

有馬次長から配布資料に基づき、平成29年度卒業・修了者の進路状況について説明があった。

(3)平成30事業年度における会計監査人について(資料8)

浦口財務課長から配布資料に基づき、平成30事業年度における会計監査人について説明があった。

(4)平成30年度重点プロジェクト事業経費について(資料9)

永松経営戦略課長から配布資料に基づき、平成30年度重点プロジェクト事業経費について説明があった。

(5)平成29年度地球温暖化対策の実施状況の点検と成果について(資料10)

東房施設課長から配布資料に基づき、平成29年度地球温暖化対策の実施状況の点検と成果について説明があった。

4) 学内外の諸情勢について

(1) 学生の競技成績について(平成30年3月～5月)(資料11)

瓜田学長補佐から配布資料に基づき、学生の競技成績について報告があった。

○カヌー部と記載されているが、「レガッタ」はボートの試合名称ではないか。

●ボートの大会は確かにレガッタということが多く、カヌーではあまり聞かないので、この表記については確認したい。

○国際大会において審判等で活動している教員等がいれば、掲載していただきたい。

●剣道世界選手権の女子コーチや体操の国際競技大会等の事例があるので、審判等で活動している教員についても今後報告したい。

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプの誘致活動について(資料12)

永松経営戦略課長から配布資料に基づき、東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプの誘致活動について説明があった。

5) その他

(1) 鹿屋体育大学アスリート憲章(仮)の策定について(資料なし)

濱田学長補佐から、鹿屋体育大学アスリート憲章(仮)について説明があった。

(2) 平成29年度経営協議会での学外委員からの意見・提言等に対する回答について(資料13)

藏田総務課長から配布資料に基づき、平成29年度経営協議会での学外委員からの意見・提言等に対する回答について説明があった。

○今年の冬季オリンピックにおいてドーピング違反を摘発された事例があった。当該選手が所属する大学ではこのような事例を想定しておらず、大変な騒ぎになったと聞いている。危機管理対策として、大学として上部団体やJADA等に相談して備えておくべきと考える。

○武道系のスポーツでは指導者と選手だけでなく、選手同士の上下関係によるハラスメントが多く見られる傾向にある。選手のインテグリティに関するものを作成するならば、選手の自立を強調し、競い合う相手や仲間に対してリスペクトを持つことを強調していただきたい。

●学長：学生アスリート憲章の策定に関して、ご意見を十分参考にさせていただきたい。

(3) 平成30年度の経営協議会開催日程について(資料14)

藏田総務課長から配布資料に基づき、平成30年度の経営協議会開催日程について説明があった。

(4) 意見交換

時間まで意見交換が行われた。内容は以下のとおり。

○鹿屋体育大学のHPについて、もっと鹿屋の魅力、大学の魅力を伝えるために、写真等を利用して感性に訴えるようなHPづくりをしていただきたい。

●本学には広報室という組織があり、本学の広報活動について検討している。頂いた意見を参考に、検討させていただきたい。

○入学者の出身地分布というものはあるのか。全国から学生が入学していることをPRすることは、広報活動として大変有効だと考えられる。もし既に作成しているならば、もっと目立つように活用していただきたい。

●入学者の出身地分布については作成しており、現在のところ、出身者がいないのは1県のみである。本学のリーフレット等にも掲載しているが、より目立つよう、活用方法を検討したい。

- 2020年のオリンピックと同年に、鹿児島では国体が開催される。鹿児島県と大学が協力して、競技力向上だけでなく、ボランティアの育成などを含めた地域貢献について検討していただきたい。
- 競技力ばかりでなく、おもてなし等の面も含めて既に県と相談している部分はある。県としっかり連携して進めていきたい。
- 鹿児島県として、競技スポーツである以上、1番を目指して一生懸命取り組んでいる。その一方で、全国から多くの方が鹿児島に来られるので、開催会場を中心に、心に残るおもてなしを実施したい。また、既に大会ボランティアの募集を開始し、研修等を実施している。アイデア等があれば、ぜひご教示いただきたい。

以上